（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4393100179		
法人名	合同会社　悠久		
事業所名	グループホーム花みずき		
所在地	熊本県球磨郡多良木町大字久米1325番地		
自己評価作成日	平成29年2月2日	評価結果市町村受理日	平成29年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成29年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は、自然豊かな田園風景の中にあり周辺には、九州八十八ヶ所霊場五十一番札所の勘代寺や久米熊野座神社、妙見野展望所があり、機会あるごとに出かけて季節を味わっていただいております。ご近所からは自宅の畑で採れた旬の野菜等を持って来ていただき、その日のうちに食卓に並び食事でも季節を感じていただいています。。入居者一人一人がその人らしく安心して楽しい生活が出来るように家族、地域、医療との連携を図り職員一人一人が利用者を尊重し向かい合ったケアをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の中で育まれた恩返しという熱い思いを込め、28年5月に開設したばかりのホームは、田園地帯とともに昔からの慣習が息づいた環境を生かしながら基盤作りに全員が心ひとつにまい進している。商店の無い高齢者及び地元農業生産者の為にと住民から見守られながら朝市が開催され、徘徊模擬見守り訓練の開催や、地域住民が気軽に立ち寄られるホームであることは、この地にホームが開設された意義や機能の発揮、住民の活性化等に繋げている。保育所・小学生等との交流や、敬老会には一人暮らし高齢者を招待する等世代を超えた交流、周辺環境を生かした外出支援等入居者の非日常の彩りとして生かされている。経管栄養・臥床中心など入居者の現状は厳しいが、"一瞬　今"を大切に、医療との連携や健康管理を徹底し、運営推進会議参加者から増床に向けた意見が出される等地域からの期待が高いホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

事業所名：グループホーム花みずき

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に各自、理念を唱えてから仕事に就いている。	開設に当たり、地域を大事にする代表の思いと、自然豊かな環境の中で生きる入居者の生活を支えることに注視し、農業に従事した人々の思いに寄り添いたいと全員で検討した理念を掲げている。また、ホーム名"花みずき"にもこれまでの感謝の気持ち等が込められている。職員個々が常に理念を意識を持って一日をスタートしている。また、ホーム名に込めた意義や理念を運営推進会議で説明し啓発に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れも積極的に受け入れ年間行事の中にも交流が図れるように行っている。朝市を行い地域の方々に喜んでいただいている。	代表の地域に育てられた恩返しという熱い思いと、地区の集落センターの隣という立地条件が、地域との関係性の構築として生かされている。近隣住民から見守られて開設に至った朝市（商店の少ない地域に高齢者にとって買物が近くで出来ることや農業を営む地域住民との交流の場）、小学生の社会科見学、保育所との交流、お月見会（綱引き）の場所提供、敬老会では地域の一人暮らし高齢者を招待する等日常及び非日常的な交流に積極的に取り組んでいる。昔ながらの野菜のおすそ分け、自宅で育てた菊鉢の持参、コーヒー飲みにと気軽に立ち寄る方等花みずき便りの回覧による地域への啓発も行き届いており、充実した地域の中での生活である。	地域の方が一緒に楽しみ、心優しい交流に開設時から取り組まれている。地域の中の一人として、これまでの環境が崩れず、生き生きとした生活として生かされている。まだ開設したばかりのホームであり、今後も継続した取り組みに大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症見守り・声掛け訓練を当施設長を実行委員長として行政、地域の方々と共に行う計画。認知症の人の理解や支援を地域に浸透させる、一歩となる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に1回)に会議を開催し、ホームの2ヶ月間のサービスの実際の取り組み状況を報告、家族や行政、区長、民生委員、近隣者等から意見を聞き、その後のサービスに活かすようにしている。	運営推進会議を開催するにあたり、設置意義及び理念等を説明しスタートさせている。役場・地域包括・区長・住民代表・民生委員や利用者及び家族等メンバー構成も充実し、ホームから現状報告を基にした意見交換や、役場保険課からの講話(食中毒)により質疑応答等が行われている。また日常生活の様子からボランティア紹介に繋がれたケースや消火避難訓練を組み入れる等創意工夫しながら定期的な開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議には町役場の担当者の方に毎回出席いただき事業所の実情や施設の取り組みを伝える等協力関係を築くようにしている。	運営推進会議を通じた情報交換や、役場主催の徘徊模擬見守り訓練の実行委員として企画・参画しており、ポイントで声掛け方法や対応のミニ講話を行っている。また、書類提出に出かけ、不明な点を質問する等気軽に話し合える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の介護保険法指定基準については、カンファレンスや申送り時に説明して理解してもらっている。	身体拘束廃止に向け、拘束に当たる事例を話し合ったり、新聞報道等により注意喚起している。転倒予防という観点からセンサーを設置し夜間使用しており、家族に承諾を得ている。自宅での環境に近いことや自由な生活の中での暮らしに帰宅願望も見られない。	拘束の実例は無く、身体拘束を行わないことがホームの方針であることを明確にすることも必要であり、ホームの信頼を更に強めると思われ、一度検討いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、勉強会、回覧にて知識を高め、職員間が注意し合える関係を作っていくよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会の勉強会や回覧で流しているが、実際に周りに対象者がおらず、理解するには、なかなか難しい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に家族、本人に重要事項説明書に沿って説明を行い、「保険分」と「自費」の部分を分かりやすく入居料についても説明している。又、ホーム内の見学も必ず行い納得していただき締結を図っている。解約も相手の意向に沿ったやり方でしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月１回の利用料の支払い請求時の手紙の中に意見、要望があれば、書いていただく欄を設けている。玄関に苦情箱を設置している。	入居者には日々の会話の中で聞き取りし、外に出かけたい等の要望に随時支援している。 家族には花みずき便りと共に、担当職員による毎月の情報提供の中に意見や要望記入欄を設けており、家族からは"お任せします、ありがたい、助かります"等が寄せられており、更に意見や要望を聞きたいとして面会時や電話、特に遠方の家族には密に連絡を取り合っている。	誕生会等行事を案内しているが家族の参加は今のところ見られない様子である。家族との交流会等を企画され、徐々に家族参加型のホームとなることでホーム運営に生かされるものと期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時、申し送り時を利用して、職員の意見を出しやすい場作りに努めている。その結果、意見や提案が行われ良いと思われる個々のケアの方法や運営方法が取り入れられている。	代表・ホーム長・管理者を中心として全員で一緒に作り上げたホームである。日々の申し送り、毎月のカンファレンス等により意見や提案を収集しており、行事計画の周知は結束に繋ぎ、職員の勤務も職員の意見が反映している。代表も頻繁にホームを訪れ、職員とのコミュニケーションや相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等を考慮して、やりがいある職場、向上心を持てるような職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し、研修を受ける機会の確保や要望を受け入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人吉球磨GH協議会への参加を通じて周りの見聞を広め、交流することで質を高めることを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け、尊重し、向かい合ったケアをすることで、本人に不安のない生活をしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、これまでの生活状態・心身状態を聞きとり、また、現在の不安や要望に耳を傾け、家族の気持ちを正直に話していただける環境づくりをこころがけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム利用前に見学をして頂き、一番必要な事を対応の中から探り、いろんなサービスの説明をして、相談者の合ったものを選べるよう図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、一緒に体操、歌、ゲームをしたり、食事も同じものを一緒に食べている。利用者様は、食事の準備、洗濯物たたみを協力してもらったり、配膳の手伝いと優しい心使いを職員に下さっている。それぞれの特技を役割として頂きお互い助け合う関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活状況を郵送している。受診報告、体調の変化は、事あるごとに家族に連絡相談している。面会や電話の取次ぎは、いつでも受け付けており宿泊もできる部屋がある。ご本人とご家族が共に過ごしていただける時間が作れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会は時々来られる。馴染みの美容室に家族や職員が同行している。時折、馴れ親しんだ場所へドライブに出かけている。	入居者にとってこの場所が馴染みの環境にあり、小学生との交流をきっかけとして卒業した学校の校歌を思い起こさせ、祭り見学や初詣、家族の支援により馴染みの美容室の利用、遠方の家族の帰省に合わせ外食に出かけられるなど人・場所との関係性を継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席やソファーの席は、利用者同士の関係を把握し相性の良さを見て決めている。トラブル等があれば、随時席の変更をし、良好な関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	色んな事情で退所された方のご家族の相談には応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意向の把握に努めてはいるが、スタッフの考えで行動してしまう事がある。カンファレンス、申し送り等で本人本位重視の指導に努めている。	入居者の中には直接職員に飲みたい物等を訴える方もあるが、意思表示はできるものの聞き取りにくい状況や、意思表示・発語困難な方、臥床中心で経管栄養という入居者には表情などで推察している。笑顔が出ると喜んでもらえていると笑顔もバロメーターとして捉えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していた施設の情報、家族からの生活歴情報、ホームでの生活の中からの情報を記録に残し、職員全員で共有し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、受診報告を勤務前に必ず読んでおくことを指導している。申し送りを行い、その日の本人に合った対応をするようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフに情報シートの記入を依頼したり、定期的に行うカンファレンスでの意見やアイディアを反映し、又主治医との相談も入れたりして現状に即した介護計画になるよう努めている。	毎月のケアカンファレンス時職員から問題点を挙げてもらいケアマネジャーとして考察し、本人や家族の意見・要望をもとにモニタリングによりケア継続の可否を見極めている。半年毎の家族との話し合いをもとにした見直し、退院後の見直しと現状に即したプランが作成されている。具体的且つ詳細なプランが作成されており、今後も毎月のケアカンファレンスの結果もプラン作成に反映されることが望まれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日常生活での行動、言葉、職員との関わりを記録している。その中で気づき項目を申し送りで随時共有しケアに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代わりに緊急時の受診支援や買い物支援を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りや運動会の見学。サロンへの参加。ピアノ、カラオケのボランティアの慰問。消防署に避難方法の指導をして頂いたり、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的な診療は、ホーム主治医を活用しており、他の専門医の受診前後には、主治医に連絡・相談・報告することで、強い関係性を確保している。	家族の了承のもと全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。専門医受診はホームの他、家族による対応も行われている。歯科については、協力歯科やこれまでのかかりつけなど希望に応じた受診を支援している。 日々看護職員を中心に健康管理に努め、バイタルチェックは朝・昼行っている。また、ホームに理解のある協力医の存在は大きく、何かあれば相談し指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職には、日々の心身状態、気づきを伝え指示を受けながら利用者が、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は可能な限り職員が面会し看護師に現状を聞き家族とホームの連絡をしている。そして、家族、医師と相談しながら、早期に退院できるように働きかけている。退院時には、入院中の情報を提供してもらい早期の復帰に役立てている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく中、家族、主治医と十分な話し合いをしながらチームでの支援に取り組んでいる。	入居時に看取り指針をもとに説明を行い、家族が現時点でどこまで希望されているか聞き取っている。殆んどの方が最期までホームでの対応を希望されている。看取りの為の部屋（シャワー・トイレ設あり）を角に設け、必要になった際は鍵を渡し気兼ねく入居者と家族の時間を持てるよう配慮している。終末期支援については、職員の心構えもできており、未経験者にも手順を伝え、皆で一緒にその方の最期を支えていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを回覧はしている。今後、全ての職員が応急手当、初期対応ができるよう勉強会を行う予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回計画し対応している。（夜間訓練を含む）	昨年10月に通報訓練を実施しており、今後暖かくなったら夜間想定で2回目の訓練を予定している。運営推進会議でも会の終了後に訓練の様子を見学してもらっている。火災は火を出さないこととして、厨房がIHだからと安心せず、防災確認を日誌の中で行っている。災害マニュアルは水害や台風についても整備しており、行政にも報告している。備蓄としては懐中電灯や非常食・水を確保し、職員も周知している。	今回の熊本地震ではホームに大きな被害はなっかたものの、自然災害のもたらす恐怖を風化させないためにも、机上訓練でも繰り返し行われることを期待したい。また。全ての職員が応急手当や初期消火ができるよう研修会を行なう予定であり実現が望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めての言葉づかいが人格を損ねる場合があるので、言葉かけに注意して対応している。重要書類は、事務所にて保管・管理し、プライバシーの保護に努めている。	管理者は方言を交えながらも自然に会話する事や、入居者の欲求に平等に応えるようよう指導し、呼称は状況に応じて苗字や下の名にさん付けで対応している。写真掲載など個人情報の使用については、入居時に家族より了承を得ている。職員の守秘義務についても、採用時や会議の中で周知徹底が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が心開いて、素直に思いを伝えることができるような対応や声掛けを職員はこころがけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重し希望にそえるよう努めているが、職員のペースで行っている場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の美容室に同行したり、訪問散髪に来ていただいている。洋服の着方が偏らないよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には一緒に食事の準備や後片付けをしていただいている。職員も入居者様と同じ食事を一緒に食べて味の批評をしながら見守り、介助をしている。	入居者の希望や季節感を取り入れた献立を、地元業者からの食材配達や、地域から野菜の差し入れの連絡を受けた際は入居者も一緒に出掛け、新鮮なうちに食材として活用している。また、山菜も身近に手に入ることから、朝採りのセリやつくしを使った御飯、午後のおやつは手作りを中心に饅頭（ソーダ・みょうが等）庭先で焼いた焼き芋などその時期に楽しめるもの一緒に作りながら提供している。職員も入居者の間に入り、料理の味や午後の希望を尋ねるなど、和やかな食事の時間であった。	調理は専任者を中心に行っているが、入居者は日頃から「なんか手伝わんば！」と、物産館への食材購入や調理・盛り付けに関わっている。また、手作りケーキを準備する誕生会には、家族を招待し一緒に食事を楽しめる機会にしていきたいとしている。入居者が引き続き食へ関わる機会や誕生会の新たな企画など今後の取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や習慣を把握し、刻みやおかゆ、ゼリー等工夫をして栄養や水分量が不足しないよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨きをされるよう声掛けしている。独りで出来ない方には、スタッフが口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の個々の状況をみながら、声掛け、誘導を行っている。少しでも失禁やパット使用を減らせるよう努めている。	排泄チェック表で把握したパターンを共有し、その方に合った声掛け・誘導を行なっている。自立の方については、継続できるよう小まめなトイレ誘導を行い、失敗から自尊心をなくされぬよう努めている。排泄用品は昼・夜など状況に応じて適切な組み合わせを検討し、臥床中心の方については、おむつ交換時を含め、体位交換を小まめに行っている。自宅で使用されていたポータブルトイレを持参された方もおられるが、殆んど使用されることはなく、トイレを使われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーション時の運動や繊維質の多い食事、水分補給で自然な排便ができるよう対応している。便秘が続くようであれば主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は原則1日おきにされている。希望に応じて連続入られる場合もある。拒否が続くとシャーワー浴、足浴、清拭で対応している。	毎日入浴の準備を行ない、希望も確認し1日4名ほどの方が入いられている。拒否が続く場合は、シャワーや足浴、清拭・着替えで対応し、清潔保持に努めている。臥床中心になられた方にも、清拭と看護職員の対応で入浴支援を行い、気持ちの良い時間を持ってもらっている。冬至では全員が楽しめるよう柚子湯を2日間実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の無いように、日中に運動、レクリエーション等により覚醒を保ちながら過ごされるよう支援しているが、その方の体調に応じて居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスや受診報告で薬の目的や副作用については説明している。服用後の症状の変化確認にも努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者によっては、食事の買い出し、準備、盛り付け、トレー拭き、散歩等をしていただいている。ゲーム、作品作り、誕生会、季節の行事を通して、入居者様に楽しんでいただき気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により近辺の散歩や季節ごとの見学、祭り見学等ドライブも行っている。家族との食事や買い物等外出も行われている。	天候や気候の良い時期はなるべく敷地内の散歩や、ウッドデッキでの外気浴などを行なっている。また、入居者からの要望による、伝承されている行事や権現さん等馴染みの祭りに出かけている。球磨を一望できる山（妙見野）に上った際は、「何十年ぶりない！」と、感激されたようである。初詣は、入居者の身体状況も考慮し、歩行に負担の無い神社へ出かけている。家族の協力としては美容院や帰省時に外食を楽しまれる方もおられる。	今後も家族の協力や地元の良さを感じることのできる場所や、祭りに出かけたり、外気浴を兼ねた身近な外出支援の継続に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的なトラブル防止の意味もあり、個人的には、お金を所持されていない。但し、必要な買い物は、預かり金、立替金で対応し、スタッフ同伴で買い物を行っている。朝市や物産館での買い物も楽しみにされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり、家族にも電話の取次ぎが出来ることを伝えている。郵便物の制限はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールにはスロープ、廊下には手すりやエアコン、ホールには、ゆっくりと寛げるソファーや大画面TV、エアコン、天井窓。居室は大きな窓があり四季の景色、鳥や虫の声が楽しめる。トイレや風呂も広く車椅子にも楽に対応でき、清潔保持にも努めている。	雄大な山や田畑など入居者にとって住み慣れた環境を満喫できるホームは、ゆとりや採光など居心地のよい空間となっている。田んぼの様子を見て「手伝いに行こうか～！」と、発せられる方もおられるようである。台所からの音や匂いが伝わるリビングダイニングには、寛ぎや談笑しやすさに配慮しながらソファが配置されている。また、草花や入居者の共同作品、穀米袋を使った鬼の面など、職員は工夫しながら季節感のある空間を作っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、広くゆっくりとできるスペースがあり、入居者様同士ソファーや食事テーブルを囲んで雑談や塗り絵等で過ごしたり、大画面のTVも楽しめる。独りになりたい時は、カウンター席を設けてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人一人自由にご使用いただいており、馴染みの物やお好みのものを持ち込まれたりして、過ごしやすいように使っていただいている。	入居時に自宅同様自分の部屋として使って欲しいことや、必要な寝具・使い慣れた物品などの持ち込みを伝えている。掃き出し窓で圧迫感のない居室は、押入れもありスッキリと整頓ができ、入居者はテレビや写真・プラスチックケースなどが持ち込まれている。また、一人ひとりの部屋にホームオリジナルの日めくりカレンダーが下げられている。居室での生活が中心になられた方にも、時には窓を開け、外の空気を肌で感じてもらうようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバイアフリーで手すりやスロープもあり　利用者の安全を考えた造りである。ベランダ中央が広く、暖かい日は外で、レクレーションやお茶を楽しむことができる。		